

保育施設 基本情報

園・施設名	社会福祉法人志正会 大久野保育園
経営主体	社会福祉法人志正会
所在地	〒190-0181 東京都西多摩郡日の出町大久野1660-1
定員	75名
理事長名	志茂成一
園長名	高野泰弘
採用担当者	長谷川正光
電話番号	042-597-2006
保育理念 保育方針 保育目標	保育理念 ：「子どもにとって」「保護者にとって」「地域社会にとって」「同志にとって」最善を考え行動する。 保育目標 ：①あそびの天才に育つ②出会いを広げ、深める③正しい方向のマイルールを身につける。 保育方針 ：①子どもも扱いはするのではなく、一人の人として尊重する。②子ども自ら成長しようとする姿を大切に。③子どもを常に真ん中に置いた生活を送る。
保育環境	東京の西にあり、自然の中にある保育園。近くには遊べる川、山、田んぼがあり、「おもしろい保育をもっとおもしろく」できる環境。 室内環境では、乳児がゆるやかなケアワーク担当制を行なっているため、年齢別のカテゴリーに分かれた部屋となっている。発達段階に合わせたおもちゃや様々な遊びができるコーナーで構成している。幼児は異年齢と年齢別のコンビネーション保育を行うための環境になっている。インクルージョンを意識した異年齢のクラスでは、自ら遊びを選べるコーナーが多数ある。 テーマ発展型探求保育を実施し、「子どもの声から」室内環境を常にアップデートしている。今年は子ども達のリフレクションができる環境を整えている。 戸外の環境は発達段階に合わせた3つの園庭がある。レベル1は1歳児まで、レベル2は2歳児まで、レベル3はメインの園庭となっている。それぞれの園庭には発達に合わせた遊具や遊びがある。特にメイン園庭には一言では語れない様々な遊びができる場になっている。（ピオトープ、井戸、大型遊具、ボルダリング、畑などなど）
ホームページURL	http://www.ooguno-hoikuen.jp
	※《保育の質》についてのお考えをお聞かせください。
	『保育の質』をどう捉えているかという2つあります。1つ目は「子ども一人ひとりの発達についてどうアプローチしているか。」「子どもの最善の育ち方をどう保障しているか」と考えています。保育の質の向上へのアプローチは多岐にわたります。 0歳児の保育と5歳児の保育内容は同じになるわけではありません。しかし、良い保育にするためのアプローチや最善の育ちを保障する環境作りは共通することもたくさんあります。0歳から5歳までつながり意識した実践をしていく。 2つ目は同年齢でも発達段階や興味関心は違います。「遊びや生活の中で、育っていく環境の質」と考えています。預かり安全に返す「託児環境の質」でもなければ、カリキュラムにそった「指導の質」でもなく、子どもたちが遊びや生活を通して「学びながら育つ環境の質」だと考えています。
	「保育の質」の向上」のために取り組んでおられることについて、具体的にご紹介ください。
	○乳児はゆるやかなケアワーク担当制を行なっています。丁寧に語り、生活力を高め「自分でできる」を増やしていきます。ケアワークとは食事・着脱・排泄のことです。ゆるやかなのは365日同じ大人が担当するのは不可能なので「なるべく同じ大人が」という考え方をしているため。しかし、大人によってやり方が違うと子どもが困ってしまうので、見通しが持てるように誰がやっても同じ手順になるようにマニュアル化している。0歳児は1対1。1、2歳児は3対1で対応している。戸外から戻るとき、食事の順番などの配慮については、園に質問してください。 ○幼児は「遊びの天才に育つ」ような環境を作っています。「したい」を叶えられるような工夫。自分の思いを持ち、相手に伝えられるような場の設定。子ども達だけで遊べることを目標にしているため、大人はトラブルが起きた時の対応が重要。「リアルとファンタジー」で遊びを展開できるように、「テーマ発展型探求保育」を実施し、子ども達と一緒にワクワクドキドキした日々を送っている。そのために行事は「前年踏襲型」ではなく、「単年度発展型」で内容も「子どもがクオリティーのちょっと上」を目指した内容にしている。
	学生の就活において「職員同士の人間関係」が重視されていることについて、お考えをお聞かせください。
事前質問回答	とても大切なことだと考えています。良好な関係の中で保育をすることが大人にも子どもにもとても幸せだと思います。 より良い保育環境作りには必要不可欠だと考えます。ただし、求めるだけでなく、関係性を構築するために行動することも重要だと考えます。入職した後もより自ら良い人間関係になるように努力してほしいと思います。「自分が働きやすいような人間関係」という自分本位の考え方をすると、難しいと思います。自分と合わない人はどこにでもいます。その時にどう打ち振る舞うかでその後の人間関係は変わってきます。より良い人間関係は法人が作るのではなく、園長や先輩が作るのではなく、みんなが作るものだと考えています。一昨年度アドラー心理学の「勇気づけ研修」を過年で行いました。自らの視点、考え方を少しでも自分本位から他者本位にするだけで、自分も周りもハッピーになるからです。より良い人間関係の中で子どもたちの最善の育ちを保障する保育士さんがたくさんになれば素敵だと考えています。職員間の環境作り、調整をしていくのは、法人や施設（園長・主任）の役割もとても重要で、必須だと考えています。
	乳幼児期における「子どもと保育者の望ましい関係」についてのお考えをお聞かせください。 また、そのような関係を築く上で大切にしていること、実践していることを具体的に教えてください。
	関係についても発達段階や子どもたちの個性や家庭環境によって変えていく事が重要です。その上で、大久野保育園で大切にしているのは「安全基地としての存在」でいることです。この考えは「安全圏の環」という考え方をベースにしています。子どもにとって「安心できる存在」「いつでも戻っていける存在」になる。大人は「冒険にどんどん行かせる（手放す）」「大人がおもちゃにならない」「子どもの遊びを奪わない」を意識していく。 具体的にはスキンシップやアタッチメントの時間や回数に減らすようにしています。例：抱っこ⇨ハグ⇨握手⇨タッチ⇨合図（グー）⇨挨拶 にしていくようにする。 また、午睡ではトントンで寝かしつけるのではなく、安心した環境の中で自立睡眠ができるようにしています。例：トントン⇨手を添える⇨アイコンタクトで「おやすみ」と、していくようにする。
	生活習慣の自立に向けた援助や関わりで大切にしていることについて、簡単な事例を基にご紹介ください。
	見通しのある生活を送ることを大切にしています。「いつもの流れ」、「関わる大人によって援助や言っている事が違う」と子どもは戸惑うだけでなく、大人の指示を待つようになります。顔色をみて行動する子どもも出ます。そうならないようにゆるやかなケアワーク担当制を行なっています。「なるべくおなじ大人が関わる」「関わる大人は全て同じ手順で接する」ようにしています。乳児期は特別な活動はほとんどしていません。遊びと生活だと、生活を重視しています。乳児期に「自分でできる」を増やし、幼児期の「遊びの天才に育つ環境」へとバトンを繋いでいきます。幼児期では、見通しのある生活を送り、自分のペースで身支度ができるような環境づくりをしています。途中入園の児童や特性を持つ児童には個別に対応するようにしていますが、「いつもの流れ」なので、「自分でできる」事が少しずつ増えていきます。
学生へのメッセージ	今、保育業界は大きな転換期です。すでに質の高い保育を展開している園。質の高い保育に切り替え、発展途上の園。昔ながら古い考え[あえていうなら、変化をしようとしていない園]が混在しています。今は「おもしろい保育をもっとおもしろく」できるチャンスが到来しています。保育業界はとっても魅力的です。 そんな中、次代を担う学生のみならずは質の高い保育を学んでいます。また、子どもの発達に関する科学的な根拠も明らかにされ、それも学んでいます。是非、たくさんの知識や実践例をインプットしておいてください。そして、たくさんの保育園を見て、体験してください。学生のうちにしかできない遊びもたくさんしておくこともお勧めします。施設の一員になったときにたくさんのアウトプットができる魅力的な人になってほしいと思います。教育・保育現場には「変わらない先輩」がたくさんいます。そうした先輩を超え、日本の保育の質を支える素敵な人になってほしいと願っています。